

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関特別支援学校 学校番号 110

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	◇安心・安全な学校生活（施設・設備、防災、医療）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから ・「医療機関との連携による健康管理」「緊急時の対応」については、93%の保護者から高い評価を得ている。「施設・設備の安全管理」については、86%の保護者から高い評価を得ている。 「生徒対象」アンケートから ・「安全への配慮」については、97%の生徒から高い評価を得ている。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康・安全に配慮した教育環境のより一層の充実 ・傷病事故等の危機管理体制の確立 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p><環境整備部を中心にした施設・設備の管理> ・遊具や施設・設備の定期的な点検を実施するための組織づくり ・遊具の安全な使用方法の周知徹底及び遊具の点検・修繕の実施 <体育安全部・渉外部を中心にした緊急災害への対応組織づくり> ・緊急災害時の対応訓練の実施 ・「緊急サポートカード」「非常用食料・水」の校内設置 <保健部を中心にした医療的ケア、医療機関との連携> ・養護教諭、看護講師との連携と医療的ケア検討委員会の実施 ・児童生徒の傷病事故を想定した緊急対応訓練の実施 <不審者の侵入に対応する組織づくり> ・不審者侵入時の対応訓練の実施</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 毎月の安全点検日における、全職員による施設・設備の点検の実施 (2) 大型遊具を中心とした安全使用・点検に係る職員の共通理解の徹底 (3) 避難訓練、緊急対応訓練等を児童生徒の実態に応じたグループごとの実施 (4) 医療的ケアに関する研修と緊急医療体制についての共通理解の徹底 (5) 事故発生後の状況を全職員へ連絡し、再発防止に努めること 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全職員による安全点検と点検内容の妥当性。点検後の適切な処置、処理の実施状況 (2) 安全点検カードや大型遊具点検カードも提出状況 (3) 児童生徒に応じたグループ研修会や対応訓練の実施及び改善の状況 (4) 既に発生した事故と同様の事故等の再発状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、全職員により校舎・設備の安全点検を行った。 ・学校全体で3回の避難訓練を実施した。寄宿舎 	<ul style="list-style-type: none"> ①「安全配慮義務」について意識を持って取り組めたか。 ②予想される危険性やそれをど 	<p>Ⓐ B C D Ⓐ B C D</p>

<p>や、児童生徒の実態に応じた小グループごとに避難訓練を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入の対応訓練に取り組んだ。 ・専門医・看護講師を講師として、医療的ケアに関する実技研修を実施した。 ・インフルエンザ対策として、手洗い、うがい、検温、マスクの着用を繰り返し呼びかけた。 ・「健康観察週間」を設け、児童生徒の健康について再点検することに心がけた。 ・新しい救急体制での訓練を繰り返し行った。 	<p>うしたら未然に防ぐことができるかなど、職員間で共通理解した上で取り組めたか。</p> <p>③訓練が、安全面に配慮して実施できたか。</p> <p>④訓練が、職員の危機管理意識を高めることができたか。</p> <p>⑤同じような事故が再発しなかったか。</p>	<p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい救急体制での訓練を繰り返し実施し、職員一人一人が緊急時の適切な動きを理解するとともに、緊急体制の確立の重要性について理解することができた。 ○インフルエンザの予防という点では全職員の協力、保護者の理解を得ることができ成果があった。 ○医療的ケアについては、担任、看護講師、保護者と連携をとりながらスムーズに取り組むことができ、日々、児童の体調を整えながら安心して学習活動を行うことができた。 ▲思い込みや慣れによる事故を防ぐ。 	<p>総 合 評 価</p> <p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を十分認識して、絶対に安全であることはないという強い危機意識をもって日々の活動を実践していけるように職員に対し4月当初から計画的に啓発や指導を繰り返し実施していく。 		

II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの評価通り、生徒・保護者ともに学校の取組に賛同している。自信を持って学校づくりを進めてほしい。 ・アンケートの結果に経年比較がされており、ここにいろいろなヒントがあるように思った。 ・総じて、安心・安全な学校生活にしっかり取り組まれているのがわかり、素晴らしいと思う。
--

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関特別支援学校 学校番号 110

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	◇学習活動・家庭との連携	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育方針は、ほぼ理解頂けていると思われる。 ・「3 特色ある教育活動」は、「C(あまり特色が無い)11%」と「E(不明)11%」が他の質問項目に比してやや多い。「他校との交流活動」「学校美術館」「キャリア教育」など、本校独自の教育活動を、更に充実・発展させていくことが望まれる。 ・家庭との連携については、概ね高い評価を得ている。 <p>「生徒対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や職員に対する信頼感、家庭との連携について概ね高い評価を得ている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域・保護者・関係機関等との連携を図るとともに、個々の児童生徒の学習状況・生活年齢に応じた指導の工夫 ・体験的な学習をより多く取り入れた、個に応じた指導の充実 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程別に指導に当たっている職員グループの枠を越えた学部全体としての職員指導体制の充実 ・児童生徒の学習のつまづきを多角的に検討し、教員同士の指導の共通化や同一性を図るための検討会の実施 ・コミュニケーションツールの活用、学習用・作業用補助具の考案など、児童生徒一人一人の障がい特性に応じた支援の在り方に係る研究・研修会の充実 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育課程別グループにおける指導内容表の検討・作成 (2) 個別の指導計画の学期毎の評価と次学期の目標設定 (3) 児童生徒の障がいや学習の状態と程度に応じた教材・教具の工夫 (4) 電子連絡網の導入と活用 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 一人一人の児童生徒の障がいの状態や実態を把握し、個に応じた指導の実施状況を把握し、個に応じた指導の実施状況 (2) 授業の振り返り、学習の定着状況を確認しながらの授業実施状況 (3) 児童生徒の障がいの状態や特性等を、保護者と十分に共通理解を図った上での教育活動 (4) 電子連絡網への保護者加入割合と活用状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学年や教育課程グループ毎の職員組織で会議を開き、児童生徒の学習指導について検討した。また、「各教科等を合わせた指導」の指導内容表を作成した。 ・指導のあり方について保護者と担任との共通理解を図るため、学期毎に児童生徒一人一人につ 	<ul style="list-style-type: none"> ①わかる授業、楽しい授業に取り組むことができたか ②体験的な学習を取り入れた授業ができたか。 ③生徒理解、保護者理解に心がけて指導できたか。 	<p>☐ A ☐ B ☐ C ☐ D</p> <p>A ☐ B ☐ C ☐ D</p> <p>☐ A ☐ B ☐ C ☐ D</p>

<p>いて指導の経過をまとめ、保護者懇談会で保護者へ提供した。さらに次学期の指導の方針について学校と保護者間での共通理解を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月「保護者・生徒対象アンケート」、12月授業参観日に「保護者対象の授業アンケート」を実施した。 ・ 電子連絡網への加入について、各学部、PTA執行部会等を通じて依頼した。 	<p>④教材教具は児童生徒一人一人に適したものであったか。</p> <p>⑤電子連絡網への保護者加入状況・活用状況は充分であったか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>11 成果・課題</p>	<p>○保護者と「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」の話し合いを通して児童生徒の指導支援の共通理解が図られた。</p> <p>○実際に体験する学習を取り入れて行うにあたって、指導内容表、単元構成表の作成を進めることができた。</p> <p>○電子連絡網を導入し、保護者、職員が加入することで、タイムリーな連絡を行うことができた。</p> <p>▲理学療法士以外の外部専門家（作業療法士、言語療法士、音楽療法士等）を導入し、より専門的な観点から児童生徒の指導に生かせるような体制づくりを実施していきたい。</p>	<p>総合評価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部専門家との連携を図れるようなシステムや窓口を検討していく。 		

II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの評価通り、生徒・保護者ともに学校の取組に賛同している。自信を持って学校づくりを進めてほしい。 ・ 法改正の中、アスペルガー症候群に光があたり、幼児期からの特別支援教育に目が向けられている。本校の体験重視の教育活動は、子どもにとって素晴らしいことだが、結果としてその活動を通して一般の方の障がい者理解が深まることにつながると思う。 ・ アンケートの結果に経年比較がされており、ここにいろいろなヒントがあるように思った。 ・ 障がいが重度化し、医療的ケアの対応も増加している中、保護者が安心して学校に登校させることができるような学校づくりはすばらしい。 ・ 小中高と子どものライフステージに切れ目なく支援がなされていると感じている。 ・ 小中高と縦のつながりが良く考えられている。小学部では個、中学部では集団、そして高等部では社会と教育目標が体系化されている。 ・ 個別の支援計画を保護者と共に作成することは、大変手間がかかることだが、保護者と学校との信頼関係が増すばかりか、保護者と学校が同じ方向性を確認していることは子どもたちにとっても幸せなことだと思う。
--

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関特別支援学校 学校番号 110

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して、豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから ・「進路情報の提供」については、88%の保護者から「良好」の評価を受けている。今後も学校に対する期待を窺う事ができる。 ・「進路・関係諸機関との連携」では、「わからない」が昨年度に比べ減少（H21,19%→H22,16%）し、保護者への情報提供が順調に行われてきている様子が窺える。 「生徒対象」アンケートから ・「自分の将来と自分の保護者との連携」については、71%の生徒から「良好」の評価を得ている。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や関係機関等と連携した進路指導体制の充実 ・「個別の教育支援計画」を活用した適切な指導の推進 ・社会的自立、職業的自立に向けて計画的な指導 ・進路情報の積極的な提供 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部を中心としてキャリア教育充実のため小学部を含め学部間の連携の充実 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進学指導 ・大学、短大見学、オープンキャンパス参加等 ・模擬試験、補習、面接指導、小論文指導</p> <p>(2) 就職指導 ・補習(一般教養、作文)、面接指導、模擬試験 ・地域実習、進路体験実習</p> <p>(3) 市町村の担当機関や進路先との移行支援会議の実施</p>	<p>(1) 進路志望の具体的達成状況 (2) 保護者と学校との連携状況 (3) 保護者・生徒と、市町村・進路先との連携状況 (4) 各部間における情報交換及び連携の状況</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者就業・生活支援センターとの連携により進路志望実現に向け支援を行った。 ・進路体験実習を計画的に行った。 ・一般教養や作文等の補習指導、面接指導、模擬試験を行うなど、個別の進路指導を行った。 ・居住地の福祉課等の協力を得て、移行支援会議の充実に努めた。 ・中学部の進路体験実習が充実してきた。 	<p>①就職・進路志望先が生徒個々の実態に合ったものであったか。志望先の達成状況は満足できるものであったか。</p> <p>②移行支援会議は、円滑な移行について実の伴なったものであったか。</p> <p>③中学部の進路体験実習の取り組みは、主体的に学ぶ態度の育成に繋がるものであったか。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>

<p>11 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○中学部2年生が進路体験実習を行い、中学部と高等部の連携体制を整え、早い時期から自分に合った進路を考える機会を作ることができた。</p> <p>○移行支援会議を実施し、学校と市町村の担当機関、進路先との連携をとることができ、円滑な移行への準備ができた。</p> <p>○障害者就業・生活支援センターと連携し、生徒一人一人により適した就職先を開拓できた。</p> <p>○確実に働く力を身に付けるために、進路体験実習を計画的に行うことができた。</p> <p>▲小学部の保護者の進路意識の向上</p> <p>▲在宅就業に関する情報収集</p> <p>▲職員の進路に関する知識の向上</p>	<p>総 合 評 価</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路だより」や「進路説明会」を通して、社会参加・職業自立を図るための方策、関係機関との連携、学校と家庭との連携による生徒一人一人に応じた進路指導の在り方について、保護者に理解を求めていく。特に小学部保護者に校内作業実習の見学や進路講話への積極的な参加の呼びかけを行う。 ・各学部段階におけるキャリア発達能力の指標と指導の在り方について検討するとともに職員の進路に関する知識等のレベルアップを図る。 		

II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの評価通り、生徒・保護者ともに学校の取組に賛同している。自信を持って学校づくりを進めてほしい。 ・アンケートの結果に経年比較がされており、ここにいろいろなヒントがあるように思った。 ・きめこまかい支援がなされており、一人一人適切な移行支援会議も実施され、生徒の社会自立・社会参加につながっている。
--